

医院だより

令和8年1月(270)

秋山医院

藤岡市小林748-8

☎0274-22-8315

明けましておめでと〜いします

睦月(むつき) 別名 年端月(としはづき)

初春月(はつはるつき) 初空月(はつぞらつき)

太郎月(たろうつき) 霞初月(かすみそめつき)

早緑月(さみどりつき) 子日月(ねのひつき)、

祝月(いわいづき)

陰暦(旧暦) 一月の異称である。陽暦にすれば、

だいたい二月上旬、立春以後から三月の初めにあた

る。新年であるから知友や親戚たちが往来して、親

しみ睦ぶという意から「むつび月」というのを略し

たものといわれる。

罷り出たものはものぐさ太郎月 蕪村

(講談社「カラー図説日本大歳時記」)

高崎だるま市 元旦



目次(頁)

1 一月の異称、一月の花、一月の言葉、

2 一月の暦、お知らせ(マイナンバーカー

ド・診療案内、健康テレフォン)

3 大岡 信選集

けんこう(百九十二)

群馬県感染症発生動向調査より

4 院長のひとりごと(238)

下り宮のこと

『一月の花』

蟠梅(ろうばい)、枇杷(びわ)、冬桜(ふゆざ

くら)、寒牡丹(かんぼたん)、日本水仙(にほ

んずいせん)

『一月の言葉』

わたしは自分の罪をあなたに知らせ、自分の

不義を隠さなかった。わたしは言った、『わた

しのとがを主に告白しよう』と。その時あなたは

はわたしの犯した罪を許された。この故に、す

べて神を敬うものはあなたに祈る。大水の押

し寄せる悩みの時にも、その身に及ぶことは

ない。あなたはわたしの隠れ場であって、私を

守って悩みを免れさせ、教えをもって私を

囲まれる。(詩篇三二・五〜七)

罪は罪を罪と認むる時に許される、神が罪に
対して加えたもう刑罰を正当と認むる時にゆる
される。罪は、神を恨んで、ゆるされない。彼

の慈愛を疑うて、ゆるされない。義の神の義を認めて、ゆるされる。神はその無限の愛をもつてするも、罪を罪と認めざる罪人をゆるすことはできない。ヨブがおのれの無辜（つみなき）を弁護しつつありし間は、艱難（なやみ）は彼より去らなかつた。彼が謙下（へりくだ）りてエホバに向かい「われはみずから悟らざる事を言い、みずから知らざる測りがたき事を述べ、……ここをもて、われみずから恨み、ちり灰の中にて悔ゆ」（ヨブ記四二、三、六）と言ひし時に、エホバはヨブの艱難を解きて、彼を旧（もと）に復（かえ）したもうた。人はいかに義（ただ）しき人なりといえども、神に逆らうことはできない。おのが罪を認めて神の許しを求むるまでである。われはわが罪のために罰せられ、またわが父母、祖先また社会の罪のために罰せられる。われは神を恨むべきでない。正当の刑罰としてこれに当たるべきである。しかしてわれにこのほんとうの悔恨の心の起こりし時に、神はそのあわれみを現わしたもうて、わが罪をゆるし、わが心に喜びの油を注ぎたまう。

（内村鑑三「一日一生」十二月六日）

「二月の暦

- 一日 元日、年賀、初詣、能登半島地震（2024年16時10分）震度7（死亡者489人）
- 二日 初荷、初夢、書初め、皇居一般参賀
- 五日 小寒、官庁御用始め
- 七日 七草、人日、太宰府天満宮鸛替え
- 十日 一一〇番の日
- 十二日 成人の日
- 十五日 小正月
- 十六日 藪入り、親鸞聖人忌
- 十七日 防災とボランティアの日
- 二十日 大寒
- 二十二日 黙阿弥忌
- 二十四日 奈良若草山焼き
- 二十五日 法然上人忌

お知らせ

一、マイナンバーカード、資格証明書で受付を行っています。

二、診療案内

木曜日は休診です。

『午後診療』では予約診療もこなっています。予約は電話でも受付できますのでご利用ください。

『診療内容』

- 一般外来診療
- 往診・在宅医療（ご相談ください）
- 骨粗鬆症の診療 ○ピロリ菌の診断・除菌
- CT、MRI、PETの予約
- 胃・大腸内視鏡
- インフルエンザ・新型コロナウイルス・肺炎球菌・带状疱疹ワクチンなど

三、群馬県保険医協会二十四時間健康テレホン

<http://www.raijin.com/kenko/>

電話〇二七―三四―四九七〇

月	冬の皮膚病
火	高血圧症と歯科治療
水	心筋梗塞と危険因子
木	入れ歯とインプラント
金	腰痛への新しいアプローチ
土日	乳がんは標準治療で

○当番医 五月五日（水）

大岡 信著『折々のうた』（春のうたから）

地方歌会侮るなかれと言ひ給ひき

だけど下手だねと呟きながら

清水房雄

『散々小吟集（平五）』所収。土屋文明逝去の折、半世紀この師に信従した作者が詠んだ挽歌の一首。

文明先生がある時、地方の歌会を軽く見てはいけないよといましめたというのである。文明はそういつてから、「だけど下手だね」と呟いた。この呼吸がいかにも自然で、読む者は土屋文明その人の声を聞く気分になる。人柄の温かさが、「だけど下手だね」にこもっているところを活写したのが、この歌の見所。



（県立土屋文明記念文学館資料より）

ばさばさに乾いてゆく心を／

ひとのせいにはするな／

みずから水やりを怠つて

茨木のり子

「自分の感受性くらい」（昭五二）所収。

詩集と同題の詩篇の冒頭三行。三行ずつ六連の詩で、以下『気難しくなってきたのを／友人のせいにはするな／しなやかさを失ったのはどちらなのか』と続く。そして最後の二連。「ダメなことの一切を／時代のせいにはするな／わずかに光る尊厳の放棄／自分の感受性くらい／自分で守れ／ばかものよ」。自戒に始まり怒りの爆発で終わる、痛快無類の詩。



（茨木のり子の献立帳より）

けんこう（百九十二）

群馬県感染症発生動向調査より（1週）



群馬県感染症発生動向調査情報（週報）

2026年第1週（12月29日～1月4日）

令和8年1月7日

★県内でインフルエンザ、感染性胃腸炎の報告が継続しています。

★冬は呼吸器感染症が増えやすい季節です。咳やくしゃみが出るときは、「マスクを着用する」「鼻や口をティッシュで覆う」「袖や上着の内側で口や鼻を覆う」などの咳エチケットを心がけましょう。

また、人ごみを避ける、こまめな手洗い、定期的な換気といった日常の対策も、感染予防に有効です。

★感染性胃腸炎は、ノロウイルスなど、アルコール消毒が効きにくい微生物が原因となることもあります。

トイレの後やおむつ交換の後は石けんで丁寧に手を洗いましょう。

嘔吐物や糞便で汚染されたものの消毒には次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）が有効です。

★海外渡航中、日本には無い感染症にかかることがあります。帰国後、体調が悪く医療機関を受診する場合は、渡航先や渡航期間を必ず医師に伝えてください。

※年末年始における休診の影響により、第1週の集計数は参考値となります。



院長のひとりごと (238)

下り宮 (くだりみや) のこと

◇昨年の初詣に富岡市の貫前 (ぬきさき) 神社に行き、社殿を見下ろす構造に、神様の頭上に脚を下ろすようで不敬な感じがしました。参拝者は下を向くので自然に頭を下げて宮に向かうからよいのだという説明もあり、なるほどと思いました。

貫前神社



熊本県草部 (くさかべ) 吉見神社、宮崎県鵜戸 (うど) 神宮を合わせて、日本三大下り宮ということのことです。

◆ほかに群馬県には渋川市にも下り宮の木曽三社神社というところがあるというので『木曽』の字が気になっていました。

その神社の名前は、大学の先輩のご家族が四十年前に北橋に家建て、毎年正月にご家族全員で初詣をしていることを話してくれていたの、知ってはいいましたが、下り宮であるとは昨年初めて知ったことでした。

◇『木曽三社・・・』という命名については資料をみると、1184年、木曾義仲が滋賀県栗津で、同族源氏の義経に追われ落命し、その後、家臣 (今井、高梨、町田、小野沢、諸田、串刈) が、長野県筑摩郡の三座 (岡田、沙田、阿礼神社の三神) を勧請して三社神社として創建したからと言われています。

木曽三社神社



◆鎌倉幕府には執拗・陰湿な印象を個人的には感じますが、鎌倉時代に「木曾義仲」に関係した神社がよくも鎌倉、室町、徳川時代を耐えて明治につないできてくれたものだなと思います。

◇ちなみに「義仲」の父、義賢（よししかた）は甥にあたる義平（頼朝の兄）に討たれています。二歳の義仲（駒王丸）は斎藤実盛により木曾にのがれることができませんでした。義仲の長子義高は義仲拳兵のとき頼朝のもとに人質として差し出され、父親の死後、殺害（十二歳）されます。許嫁だった頼朝の娘大姫の苦悩、混乱は激しく、皇室への縁談も断り二十歳で亡くなっています。

◆義仲は三十一歳で近江（滋賀県）の粟津で生涯を終えています。最後まで一緒に戦い、自害（切腹）の時間をとらせようと奮戦した家来が今井兼平です。彼らの後裔は上野村にも住んでいたと言われています。有名な巴御前、兄の兼平とともに義仲の乳兄弟だったという説があります。

◇二〇年以上も前に神流川を渡り神川町を目的もなく自転車であつていた時に、源平時代に関する石碑が何かを見つけたことがあります。

その町から病院に通っていた方がおられ、そのことをお話しすると、そうそう、その戦以来この村では、トウモロコシを作らなくなったんだ、と言われた。

「はっ？・・・なぜ？」

と伺ったのですが、どうも説明を理解できなくて、ずっと疑問に思っていました。実際トウモロコシ畑はありましたから。

◆二年前に、悪性腫瘍の方をお家で看取る機会がありました。その方は上野村のご出身でしたので、トウモロコシのことをぜひ聞いてみようと思い、一回目か二回目の往診に伺ったところ、首を傾げられ、『モロコシといっても、日本もろこしとトウモロコシと二種類あるのだが…』といわれ、話が進まなくなりました。そのついでに「義仲以後」のことで上野村には、言い伝えなど残っているのですか？と伺ったところ、◇「センセは何だい、義仲のことを知っているのかい、それは嬉しいな…」という人が変わったようにニコニコされました。「巴御前」の話も出るともう居ても立ってもいられない様に、

「ああ、もっと早くから知っていれば、いっぱい話ができたのになあ・・・」と。

◆そういえば、この方も、兼平、巴と同じ「今井姓」なのでした。

同じ悲劇の武将でも「義経」と違って、華やかさがなく、天才的な武将でもなく、武骨で、都会慣れせず、法皇貴族から「田舎者」と蔑まれても、ただ実直に働いて、しまいはつごうがわるくなると門を閉ざされて追い払われて、幼馴染と成長して村から一緒に出て来た『お兄ちゃん（兼平）』と最後まで戦って、義経軍から飛んできた矢に喉を貫かれ、それでやっと安らぎを得た悲劇の武将に対しては、義仲軍の兵士の末裔たちには八〇〇年分の憐憫・いたわりの感情が「義仲」と聞くだけであふれてくるような気持ちがするのはないでしょうか。

◇そんな、夢想のような思いに浸っていて、『イマイさんも損な性分だよ』

ワタシもね、と自分にもあきれていたとき、あることがわたしに光明を与えてくれました。

このことを、イマイさんにも日本国中の「イマイさん」にも話してあげたかったナ・・・

◆それは、後世生まれた俳聖・芭蕉翁も、「義仲」に「直ぐなるところ」を見たのでしよう、永遠の眠りにつくのは、琵琶湖のさざ波が聞こえる「義仲寺」のあなたのすきな義仲さんのお墓のすぐ隣で休まれているということ。

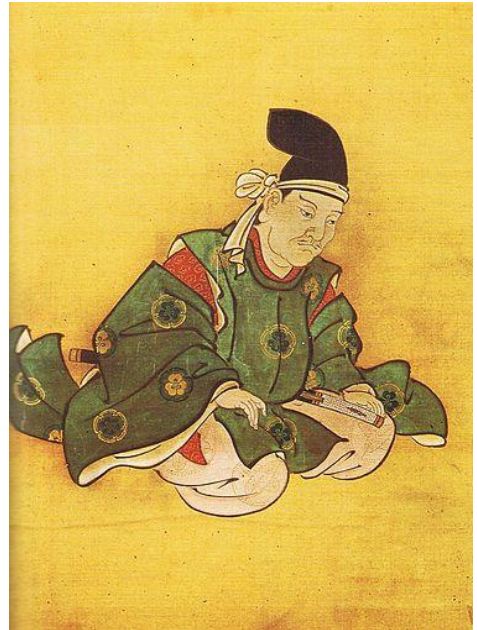
木曾義仲像



巴御前



今井兼平像



どんど焼き（前橋市）

